

ふじのくにフロンティア地域循環共生圏計画書

1 地域循環共生圏の名称

東駿河湾クラフトビール地域循環共生圏

2 地域循環共生圏形成の主体の名称

沼津市、三島市

3 地域循環共生圏における取組

(1) 取組の範囲（地域）

沼津市、三島市の行政区域

(2) 地域の現状と課題

(圏域内人口の減少)

- ・沼津市では 1995（H7）年、三島市では 2005（H17）年をピークに人口減少が続いており、少子化による自然減に加え、若者の東京圏への人口流出による社会減も顕著である。人口減少に伴う活力の低下や働き手の不足、地域コミュニティの維持の懸念、税収減の悪循環などが大きな課題である。

(地域経済の低迷)

- ・コロナ禍以降、観光交流人口が徐々に回復傾向にあるものの、コロナ禍前までの水準には届いておらず、観光業の衰退が懸念される。一方、円安傾向も影響して外国人旅行者いわゆるインバウンドが年々増加しており、新幹線駅の三島駅や沼津駅のインバウンド利用も増加傾向にある。このため、観光業の維持においては、これまでの国内需要とインバウンド対応を総合的に捉えて検討しなければならない。
- ・一方、本地域では地ビール文化からスタートし徐々にクラフトビールの醸造が盛んとなっており、現在は県内の 2 割を占める 8 箇所クラフトビールの醸造所が存在している。今後も市場規模が拡大していくと予想されている中、若者やインバウンドに人気のクラフトビールが新たな地域資源となっているが、このポテンシャルを地域づくりに活かす方策が希薄である。

(温室効果ガス排出量の削減)

- ・地球温暖化が主な要因とされる気候変動による、台風、大雨などの自然災害の増加等を受け、両市では 2022（R4）年 3 月に沼津市は「ゼロカーボンシティ NUMAZU2050」を、三島市では「2050 年カーボンニュートラルシティ」を表明し、温室効果ガスの排出量実質ゼロに向けて、市民、事業者、行政が一体となって取り組むこととしており、再生可能エネルギーの普及促進や省エネルギー

機器の推進をしている。加えて、廃棄物量の削減もごみ処理に伴う温室効果ガス発生抑制につながる有効な手段である。圏域におけるごみ埋立場の容量は限界に近づいており、今後も継続的・安定的なごみの最終処分を行っていくためには、圏域の廃棄物削減の意欲を全体的に高めることも重要な点である。このうち、事業者による産業廃棄物の処理量は微減しているものの依然として高い水準であり、産業廃棄物の削減においては資源を有効に活用するような仕組みが求められる。

(3) 目指すべき地域の姿

地域に根付いたクラフトビール文化を活かし、首都圏やインバウンドの活力を呼び込むとともに地域循環型社会の構築を実現するサステナブル連携都市

(4) 実施する取組内容

①圏域内の産業が連携した地域循環型産業の推進

クラフトビール製造過程で廃棄されるモルト粕の利活用の観点から、クラフトビール産業と地域地場産業との補完モデルとした地域循環型社会を構築する。

- ・産業廃棄物として処分しているモルト粕を有効活用し、豚の飼料化やきのこの菌床として活用するなど、他産業での活用を創出するアップサイクル製品の開発及び販売等を総合的に支援することで、廃棄物の削減につなげる。また、モルトビネガーやクラッカーなどの新たな食品としての付加価値を創出するとともに、クラッカーは災害時避難を想定した備蓄資材としての活用を検討する。
- ・特産物を活かしたオリジナルビールを開発することにより、新たな魅力ある地域資源として磨き上げる。
- ・アップサイクルの検討にあたり、脱水・乾燥等の設備を導入したアップサイクル拠点を整備することにより、オープンイノベーションによるアップサイクル製品化や新たな産業創出等の支援を行う。

②地域ブランド力強化による関係人口の創出

様々な人がクラフトビールを介して地域を知り、地域に触れる環境づくりを推進し、「クラフトビールの聖地」としての認知を進めるとともに、関係人口の創出を図る。

- ・地域版品評会を開催し、クラフトビールの認知度向上を図りながら、他の地域資源と連携することで、観光交流人口の増加による賑わいを創出する。
- ・クラフトビールを活用したガストロノミーツーリズムの展開や、ワーケーション

ン・テレワーク、クラフトビールを活用した交流・体験等と、宿泊を組み合わせた体験プログラムを構築することで、首都圏等からの継続的な利用を促進する。

- ・駿河湾海底や旧石切場など地域特有の資源と連携したオリジナルビールを開発することや、ふるさと納税における官民連携、広域連携による返礼品の開発等を進め、地域経済の活性化を促進する。

③DX化による地域一体的なマーケティングの導入

デジタルチケット等のデジタルツールを導入し、上記取組を一体的に進めることにより、圏域におけるDXを推進するための先進事例として活用する。

- ・ガストロノミーツーリズムやワーケーションプログラムをより効果的に推進するために、デジタルスタンプラリーを導入し、圏域における観光周遊性の向上を図る。
- ・地域版品評会やワーケーションにおける参加チケットをデジタルチケット化することにより、煩雑な手続きの簡素化を図る。
- ・上記取組により収集したデータやふるさと納税返礼品のデータ等を活用し、クラフトビールマーケティングをはじめ観光施策や新たな地域づくりへの活用につなげる。
- ・協議会公式LINEをリッチメニュー化し、上記デジタルツールを紐づけるとともに、モルト粕や各醸造所の取組、イベント情報等を定期配信することにより、効果的かつ一体的に取組を推進する。

(5) 地域の環境・経済・社会への効果

環境への効果

- ・モルト粕のアップサイクルを推進することにより、廃棄物の削減が見込まれる。

経済への効果

- ・地場産品を活用した新ビールを開発することにより、新たな地域特産物のブランド化が図られるとともに、地場産品のPRにつながる。
- ・ワーケーションやビアツーリズムにより、クラフトビールに対する興味ที่深まりリピーターに繋がる。
- ・モルト粕をアップサイクルし、商品化することにより、クラフトビール産業だけでなく、他産業においても新たな収益源を創出することができ、地域経済の活性化を促進する。
- ・様々なデジタルツールを活用し、マーケティング情報を分析することにより、クラフトビール業界における新たな展開に寄与するだけでなく、圏域の観光施策に活用することにより、地域経済の活性化が期待できる。

社会への効果

- ・モルト粕をアップサイクルすることで、栄養価が高く、保存の効く食品を開発することにより、防災時は非常食として提供することができる。

(6) 第3期基本計画における位置づけ（柱立て）

- 1 環境と調和した循環型社会への移行・自然との共生の実現
 - ・地域資源であるクラフトビールの製造過程で生じるモルト粕を地域特有の産業でアップサイクルすることで、地域循環型産業が構築される。
- 4 産業構造の転換に向けた取組
 - ・LINEのリッチメニュー化、デジタルチケットの導入、デジタルスタンプラリーイベント開催により、マーケティング情報を分析するとともに、圏域におけるDXの推進を図る。
- 5 人材の育成とオープンイノベーション
 - ・モルト粕アップサイクルにおいて、スタートアップ企業等と連携する。

4 地域循環共生圏におけるふじのくにフロンティア推進区域及び新拠点区域

区域名	—
-----	---

5 地域循環共生圏において実施する事業の概要

(1) 循環拠点区域

区域名	—
事業内容	—
事業実施箇所	—
想定している事業実施主体	—
活用を予定している支援策	—
土地利用の状況	—

(2) その他実施する事業

事業名	アップサイクル拠点整備事業
事業内容	循環拠点区域を目指し、アップサイクル拠点として脱水機・乾燥機を導入するとともに販わいの創出につながる施設整備を検討する。
事業実施箇所	沼津市、三島市内

想定している事業実施主体	静岡クラフトビール協同組合
活用を予定している支援策	ふじのくにフロンティア地域循環共生圏形成事業費補助金
土地利用の状況	－

事業名	アップサイクル推進事業
事業内容	クラフトビール醸造過程で生じるモルト粕を脱水、乾燥させ、豚の飼料化し、ブランド化する。また、クッキー等にアップサイクルする。 スタートアップ企業等と連携し、新たな技術を用いたアップサイクルの検討を行う。
事業実施箇所	沼津市、三島市内
想定している事業実施主体	静岡クラフトビール協同組合
活用を予定している支援策	ふじのくにフロンティア地域循環共生圏形成事業費補助金
土地利用の状況	－

事業名	地域ブランド力強化事業
事業内容	地場産品や地域固有の環境を活かしたオリジナルビールを開発する。 クラフトビールを楽しむきっかけづくりとして地域版品評会の開催、ガストロノミーツアーリズムの展開、ワーケーション等交流の促進を図る。
事業実施箇所	沼津市、三島市内
想定している事業実施主体	東駿河湾クラフトビール地域循環共生圏推進協議会
活用を予定している支援策	東駿河湾クラフトビール地域循環共生圏推進協議会 大瀬海浜商業組合 静岡クラフトビール協同組合加入ブルワリー
土地利用の状況	静岡クラフトビール協同組合加入ブルワリー

事業名	D X化推進事業
事業内容	イベント等で活用するデジタルチケットやデジタルスタンプラリーを開発するとともに、公式LINEをリッチメニュー化することでデジタルツールを集約する。

	圏域におけるクラフトビール PR 動画を作成し、商業施設や駅前のビジョンやデジタルサイネージで放映する。
事業実施箇所	沼津市、三島市内
想定している事業実施主体	東駿河湾クラフトビール地域循環共生圏推進協議会
活用を予定している支援策	ふじのくにフロンティア地域循環共生圏形成事業費補助金
土地利用の状況	－

6 地域循環共生圏の事業実施における合意形成の体制

関係者の合意の状況	東駿河湾クラフトビール地域循環共生圏推進協議会
推進体制の設置状況及び活動状況	<p>【構成団体】沼津市、三島市、静岡クラフトビール協同組合</p> <p>【設立目的】地域の特徴的な産業資源であるクラフトビールを活用した地域循環社会の形成に取り組むことで地域経済の発展と地域の魅力向上を図ることを目的に設立</p> <p>【活動状況】幹事会を毎月開催</p> <p>【設立】令和6年3月19日</p>

7 事業実施の工程

事業名		R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
アップサイクル拠点整備事業		設置場所検討	地元調整 施設整備 機器設置 (循環拠点区域検討)	運用	運用
アップサイクル推進事業		調査検討	試行	商品化	商品化
地域ブランド力強化事業	地域資源活用	実証実験	商品化 ふるさと納税 検討	商品化 ふるさと納 税検討	商品化 ふるさと納 税検討
	地域版品評会、ガストロノミーツーリズム、ワーケーション		事業実施	事業実施	事業実施
DX化推進事業		実証実験	導入	運用	運用